

## 令和4年度「テレワーク活用ネットワーク会議」第1回会議の議事概要

日時 令和4年8月24日(金) 13:30～15:00

場所 テレワークセンター徳島 (ウェブ会議)

### 出席委員(6名)

会長	猪子 和幸	特定非営利活動法人 ジェイシーアイ・テレワーカーズ・ネットワーク理事長
副会長	米澤 和美	徳島県社会保険労務士会顧問
委員	川原 雅好	株式会社エル・イズ・ビー
委員	角 香里	特定非営利活動法人チルドリン徳島
委員	田澤 由利	株式会社テレワークマネジメント代表取締役
委員	葛籠 枝美	株式会社テレコメディア徳島支社人事部部長

※佐々木委員、竹内委員は欠席。

### ●概要

#### 猪子会長

・議事次第に基づき、「令和4年度の取組について」の説明を、事務局からお願いします。

#### 徳島県

(説明)

#### 猪子会長

- ・続いて、議事(2)「障がい者雇用とテレワークについて」ということで、私からお話しさせていただきます。
- ・まずは、ジェイシーアイ・テレワーカーズ・ネットワークの紹介をさせて下さい。
- ・「誰もが 生き活きと 学び 働き 暮らせる社会を」。団体紹介資料のタイトルです。「学びと働きと暮らし」の3つがセットになっています。テレワークは、次の世代の、最も理想的なワーキングスタイルであるとの強い思いから、20数年間、この事業に携わって参りました。学ぶのも、働くのも、生活をするのも自宅。そういうライフスタイルが、障がいのあるなしに関わりなく、全ての人たちにとって、一番理想的な、ライフスタイルだとの思いです。
- ・健常者の方たちに先駆けて、障がい者自らが実践し、先行事例を示したいとの、無謀な動機から、1999年、高等学校の教員を退職した翌日に、NPO法人ジェイシーアイ・テレワーカーズ・ネットワーク(テレワーカーたちのネットワーク)を創設しました。
- ・創設者の履歴です。商業科の高等学校の教員を勤めていました。
- ・昭和40年代前半から、「コンピュータ教育」を国の大きな施策として推進するために、各都道府県に「情報処理教育センター」を設置し、汎用コンピュータを、1セットずつ、設置する事業が、急速に進行していました。
- ・当時の商業高校は、ほとんどの生徒が、卒業後、直ちに就職していました。企業では、既に、社員へのコンピュータ教育と業務への導入が始まっていました。
- 「もはや、簿記と算盤と文書実務だけで事足れりの時代ではない」。私は、ひとりでコンピュータの勉強を始めました。身近に指導者はおらず、実物も参考書もありませんでした。

このことが、県教委に漏れ伝わったのか、1973年1月、情報処理教育センターに入所し、以後14年間、職業学科(商・工・農・水・家・養)の生徒実習、教職員研修、教育情報処理システムの開発に携わりました。

・1987年4月、現場に復帰し、校務と併せて、高等学校へのコンピュータシステムとインターネット環境の導入・整備と学習活動での有効利用を実践的に研究、高等学校で使用する文部省検定教科書・情報処理検定試験用の参考書・問題集、専門誌へのレポートなどの執筆も行いました。

・定年退職したのが1999年3月。

・現職の後半に、養護学校の生徒たちのコンピュータ実習を受け入れました。彼らが、不自由な手足を使って、実習室を歩き来し、穿孔機の鍵盤を打ちます。目を輝かし、歓声を上げます。

・彼らを送り出した後、あんなにうれしそうに勉強していた彼らは、卒業した後、どうなるのかと考えたら、むなしさしか残りません。この子たちが、胸張って職業生活を通して自己実現ができるような環境を作ってあげるのは、私たち大人の責任ではないか。この思いが募って、退職の翌日、1999年4月1日に「ジェイシーアイ・テレワーカーズ・ネットワーク」というNPO法人を作りました。

・団体の構成・事業・独自性です。

「構成」理事長、事務局長、理事、正会員(90%が障がい者、10%が高齢者)

「事業」テレワーカー・テレワークコーディネーターの育成、テレワークの受注(中央省庁・県・市・民間団体・個人)

「独自性」業務の分配、進捗管理と指導、検品・納品・代金決済・報酬支給までを、団体が統括管理・運営し、入会金・会費は徴収せず、会員は、業務で得た収入から、各自、応分の事務費を、団体の運営資金として納付します。

・あらゆる特性を持つ障がい者が在籍しています。身体のほとんどの機能を失い、口しか動かせないため、割り箸を口にくわえて、キーボードの鍵盤をつつきながら仕事をする女性が、粘り強い努力を重ね、障がい者対象の講習会で主講師を務めるまでに、スキルアップしています。

・今、需要が急速に増加しているにも関わらず、技術者が全国的に不足しているのが「ウェブアクセシビリティ」の分野です。見えない者や聞えない者をそのままにして、見た目だけがきらびやかなホームページがどんどん増殖する中で、辛い思いをするのは、いつも彼らです。

・人材育成の独自性です。

「会員自身による教育の拡大再生産」内部研修や講習会で、一度教えてもらった者は、次に新しい人が入ってきた時には、必ず講師補助員として後輩を教えていく。これを徹底して実行することにより、教育は拡大再生産されて、次々と新しい人材が育つので、他に人材を求める必要がありません。

「OJTによる『実践的専門性』と『職業意識』の養成」

クライアントからのオファーは、「現在の力不足」を理由にして断らぬことと「人を外部に求めない」ことを、受注の基本ポリシーとし、必要な知識・技術は、仕事を通して自らが求めます。

上の2項をシビアに実行することで、事業の「持続的発展」を支える人材全てを自己調達することが可能となっています。

・あと一つ、お手元の資料「新生 JCI の実現に向けたロードマップ」を説明します。

私はずっと考え続けて来たことは、行政や企業が行っている「障がい者支援」は「障がい者を支える」「保護する」ことであり、障がい者は、常に、「受け身」であり「主体性」に乏しいという現状です。

障がい者自身が意思決定を行い、利を営みシェアする「複合的な経営体」の実現によって、初めて、障がい者は、健常者と対等に向かい合っ、仕事も議論も協働もできる、と確信しています。

・「一般社団法人アクセシビリティ協会」を創設しました。一般社団法人は、社員2名(個人・法人可)で創設出来ますので、猪子と幸とNPO法人JCIを「設立時社員」としました。

両法人間での「人」と「知恵」のシームレスな往来を実現することによる、業務の効率化を期待しています。

・定款に定めた目的は「障がい者・高齢者等の社会的・経済的自立及び生活環境改善に寄与

すること」で、具体的には、次の事業を予定しています。

・高齢者・障がい者等の就業・就労支援事業、アクセシビリティ検査員育成事業、アクセシビリティ検証・評価事業、育用書籍の出版事業、障がい者自立支援機器の提供事業  
・7月7日に定款の認証が終わり、8月8日に法人登記が完了しました。

## 委員

・今日のテーマである障がい者テレワークは、私も猪子様と同様に一生懸命やっているものですから、5分だけでもいただけたらと思います。

・実は、この2か月ほど、喉の声帯を痛めてしましまして、ちゃんとしゃべれなかった。短期間だったんですけども、私はしゃべれないという障がいを経験できた。その経験が、ずっと「障がい者の方もテレワークならいけるよ」と言っていた自分の、甘かったところや、もっと工夫すべきだったことも含めて、気がついたことをぜひお話したかった。

・例えば、有名人だと、つくくさんが、病気のせいで声が出なくなって、ネット上でお話しされるときは、全部チャットです。これは、ITのおかげでできているんですけども、やっぱりしゃべる人とチャットというのでは、あまりにも違う。

・それを見たときに私も、どうしようかと。実は講演が入っていた。声が出なくてもセミナーをするには、どうすれば良いか考えて、工夫した結果、AI自動音声というものを見つけた。普通の言葉なら、入力して、すぐしゃべらせても、そんなに不自然ではない。しかも、2万円くらいで買ってしまうということが分かって、それを工夫してPowerPointと組み合わせ、講演をやりました。もちろん、自分がしゃべるときと100%同じようにはいかないんですけども、そのAI音声で十分できるし、かつメリットが出てきます。デジタルデータですから、ちょっと間違えても、すぐにテキストから修正すればいい。自分の講演の動画が、そういった技術によって、すごく進められることが分かりました。ちょっとだけ実際に見ていただいた方がいいかなと思いますので、音を共有させて下さい。

(動画・音声)

・今回はしゃべれないという障がいでしたが、ICTの力を使ってできることを今回、すごく学ばせていただいて、今後もこの技術をもっと使っていきたいと思っております。ですから、皆さんとそういう話を共有したかったことと、もしどなたか、徳島県の方にも、こういうことをやってみたいと思われる方がいらっしゃったら、ツールの名前とか、やり方をチャットで入れさせて下さい。(https://note.com/tazawayuri/n/nd45e274a3ae2)

・もう一つ、先日、デジタル庁の村上統括官が、Facebookに講演資料の画像25枚とテキストを出された。統括官から許可を得て、その画像をPowerPointに貼り付けて、音声認識を使って動画にしたところ、結構良かった。デジタル田園都市構想の話ですので、皆さんに関連する部分があるかも知れません。URLを貼り付けますので、よかったら後で

見ていただければと思います。(https://youtu.be/h2aCZJFH328)

・それから、障がい者の方の雇用の可能性。皆様がやってきたことが、より一層進むのではないかと願っています。ありがとうございました。以上です。

#### 委員

・感想になってしまいますけれど、弊社は県の「とくしまスマートワークプロジェクト」という事業を受託しており、私はテレワークの企業に向けた推進をやっております。障がい者雇用の法定雇用率が達成できていない企業様にも、方法の一つとして、ICT を取り入れることで仕事の切り出しの幅が広がるとか、障がいのある方が調子の悪いとき等は無理に出社しなくても出来ることだけおうちで出来るようにするとか、サポートをする方の負担を少し減らせるとか、いろんなところでテレワークや ICT の活用が効果的かもしれない、ということをお伝えしています。県の障がい者雇用促進事業の受託者と意見交換したときのことを思い出しながら、今日の猪子先生のお話で非常に印象的だったのが、障がいのある方にとっては、学ぶことも働くことも暮らすことも、できたら同じ場所であるのが理想と。私の仕事でいくと、どうしても企業の側からの理想、今の形をあまり変えずに障がいのある方を雇用したいというのが、多分本音かと。だけど、障がい者雇用について私がイメージできることや理解がなかなか追いついていないし、本当にこれからだんと思えます。企業側に理解してもらったり体制を整えてもらわないといけないところはあるんですけども、逆に雇用される側もそんなに気を遣ってもらわなくてもという方もいらっしゃると思いますし、これからもっといろいろな話を伺って、考えていきたいなと思いました。

#### 委員

・最近思うんですが、女性や障がい者、高齢者が弱者というのが嫌いで。ヤングケアラーなども問題になっていますけれど、何らかの足りないところを補い合えるような社会ができればいいなと、理想論ですが。

・私自身、課題として持っているのが、障がい者とまではいかないけれども、精神的に病んでいる方がコロナで増えつつあるように思う。そういう方が、仕事に復帰できる社会になるように、テレワークを活用して、いきなり会社に戻るのではなくて、一部在宅で仕事をするとか。労働者も、その間は給料が安くてもいいとか、そういうのもお互いに話し合っただけでなく、でない労働力人口が減っていく中、さらに厳しくなると、ちょっと危惧もしているのでも、そういうのができればいいなと、私自身も働いているので思っている。

・企業さんの考えもちょっとずつ変わってきてまして、前だったら、もう辞めさせるといのが多かったんですけど、今は、この人に戻ってきて欲しいから、もうちょっと休業期間を延長するとか様子を見て、その後どうしたらいいですかという相談も増えてきた。それで、テレワークが生かされたらいいなと思っている。

・委員の AI の音声のツールもすごかったし、何でもできるような気になってきた。

#### 委員

・最初の県の方からの説明で、取組がパワーアップしていて驚いた。このままどんどん、テレワークが進んでいけばいいなと感じています。以上です。

#### 委員

・障がい者雇用の取組について、弊社では、テレワークは実施していないんですけれども、長く勤めていただいている方が多くいらっしゃいます。そして、障がい者とか健常者とかではなくて、しっかり仕事をしてくださるようお願いしています。

・一つ、長年お付き合いをしてくると思うことがあるんですけども、障がい者の方は、手帳をお持ちになっているんですけども、何級とかではなくて、お一人お一人違います。それは

私たちと一緒に、こういう作業が得意な方とか、苦手な方とかということで、一緒だと思うのです。

・私たちは、これを御本人とよく話し合っ、得意なものから取り組んでもらって環境に慣れて、少しずつちょっと苦手な部分もできるようにというのを、かなり長い年月をかけてやっています。時間についても、やはり集中力というところで、あまり長い時間から初めて、自信をなくすと大変なので、その人その人に合わせて少しずつ自信を持って働ける時間ということで、取組をしています。長く勤めて下さっている方もいますし、今3年目の方は、最初は紙を並べ替えるような作業でしたが、今は主力となっている事例もございます。

・何級とかくくりで見ると、一人ひとりを見るのが大事だと思ったのと、そうはいっても時期的に調子が悪いというのもございますので、そういったときにテレワークを活用すればよりよいのでは、と話を聞かせていただき勉強になりました。ありがとうございました。

#### 委員

・先ほど委員から、しゃべれないときの AI 音声のツールの紹介があったんですけども、視覚障がいの方のためのソフトウェアを、株式会社高知システム開発さんの製品なんですけれども、テレワークセンター徳島で体験できます。高知システム開発さんには「テレワークサポーターズ企業」になっていただいておりますので、御相談いただければ。高齢者の方とか、目の不自由な方が、簡単にパソコンを操作できるように、スクリーンリーダーや音声ブラウザなどの音声ソフトを開発している会社です。

#### 猪子会長

- ・また色々教えてもらいたい。
- ・それでは、これで意見交換を終了し、事務局の方に進行をお返しします。

#### 徳島県

・ありがとうございました。本日頂きました御意見や御提案等につきましては、事務局において整理し、今後の県の施策に反映させていきたいと思っております。

・それでは、これをもちまして令和4年度「テレワーク活用ネットワーク会議」第1回会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。